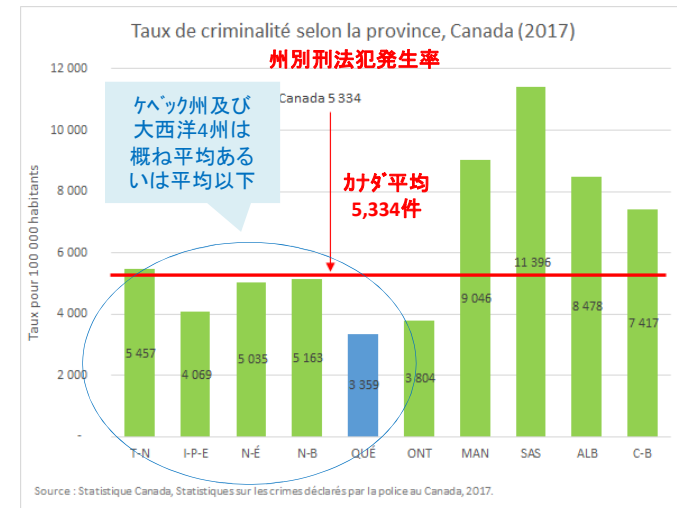
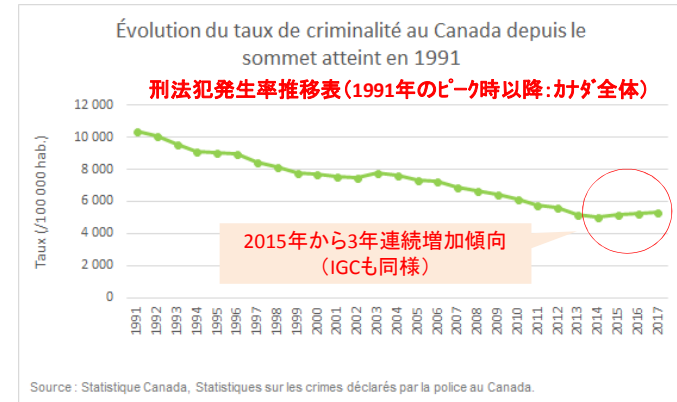


犯罪発生状況(在モンリオール日本国総領事館管轄州)

2017年統計

州及び各都市		刑法犯発生数*		治安指数(IGC)**	
		2017年	増減率	2017年	増減率
カナダ全体		5,334	1%	72.9	2%
QC(ケベック州)		3,359	0%	57.1	2%
	Montréal	3,363	-1%	58.2	0%
	Québec	3,193	7%	48.5	8%
	Trois-Rivières	3,290	12%	53.1	10%
	Sherbrooke	3,347	1%	51.9	3%
	Saguenay	3,295	-1%	55.4	-2%
NL(ニューファンドランド・ラブラドール州)		5,457	-8%	63.0	-9%
	St. John's	5,196	-9%	66.8	-15%
PEI(プリンスエドワードアイランド州)		4,069	-5%	44.9	-7%
NS(ノバスコシア州)		5,035	3%	65.9	6%
	Halifax	4,993	7%	64.4	4%
NB(ニューブランズウィック州)		5,163	9%	69.0	11%
	Moncton	7,241	17%	85.8	15%
	Saint John	4,569	4%	56.5	3%

- カナダ全体のIGCの増加(2%)は、主に「傷害に至らない強制わいせつ」(+13%)、「盗品所持」(+15%)、「自動車・オートバイ盗」(+6%)、「殺人」(+7%)の増加に起因。
- 強制わいせつの増加は、昨年度広まった#Me Too運動の結果、これまで申告をためらう性犯罪被害者からの届出が増えたことによるとの当局の説明。
- 各州レベルでのIGCの増減は、主に住居侵入・空き巣の数字に連動。
- IGC増加率の最も高いのはNB州であるが、原因は主に「詐欺」及び「住居侵入・空き巣」の増加によるとの説明(モンクトンの増加も同様の理由)。なお、数字が極端に跳ね上がったのは、消費者センター等警察以外の組織に通報される詐欺未遂が、2017年より犯罪報告として統計に算入されたことによる。



*刑法犯発生数:人口10万人あたりの刑法犯発生数。なお、加刑法典には飲酒運転、大麻・薬物関連連反、銃器関連連反、売春、児童ホルノ関連犯罪等幅広く記載されているため、日本の刑法犯発生(認知)数との単純な比較は困難(東京都の同人口割合における2017年刑法犯発生数は約900)。

**治安指数:犯罪発生数に発生犯罪の罪の軽重を加味して導き出された指数。2006年のカナダ全体の発生数及び犯罪内容を100として計算。

治安情勢の一つの目安として、殺人事件の人口発生割合を試算(2017年)

国・都市	殺人発生数	人口(単位:百万)	率(10万人当たり)
カナダ	660	36.7	1.8
ケベック州	93	8.2	1.1
モンリオール	46	4.1	1.1
米国	16,470	306	5.4
日本	920	128	0.7